

令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

学校教育課

【調査対象】山陽小野田市立小・中学校19校(小学校12校・中学校7校〔分校含む〕)

小学生3029名 中学生1459名 合計4487名

【調査対象期間】令和5年4月1日～令和6年3月31日

1 暴力行為

1000人あたりの発生件数

	R4	R5
国	7.5	8.7
山口県	6.2	7.0
山陽小野田市	13.2	15.8

	R4	R5
小学校暴力行為	27	22
中学校暴力行為	34	49
暴力行為合計	61	71
小学校発生率	8.7	7.3
中学校発生率	22.6	33.6

○暴力行為は、小学校22件、中学校49件、小中学校合わせて71件で、1000人あたりの発生率は15.8である。2年連続増加傾向となっている。
○71件のうち、約80%の57件が生徒間暴力である。器物破損が増加している。

年度	対教師	生徒間	対人	器物破損	合計
R4(件)	6	46	1	8	61
R5(件)	0	57	1	13	71

2 いじめ

1000人あたりの認知件数

	R4	R5
国	53.3	57.9
山口県	28.8	32.0
山陽小野田市	21.7	30.1

	R4	R5
小学校認知件数	51	81
中学校認知件数	49	54
小中認知件数	100	135
小学校認知率	16.4	26.7
中学校認知率	32.5	37.0

○いじめの認知件数は、小学校81件、中学校54件、小中学校合わせて135件、1000人あたりの認知率は30.1で国や県より低くなっている。
○学年別では、全国的には小学校2・3年生をピークに学年が上がるにつれて減少していくが、本市では小学校5年(25件)、中学校1年(26件)が多くなっている。

校種	認知件数	①日常的衝突	②教育的課題
全体	135件	116件 (85.9%)	19件 (14.1%)

3 不登校

1000人あたりの出現率

	R4	R5
国	31.7	37.2
山口県	31.1	37.4
山陽小野田市	28.4	35.7

	R4	R5
不登校児童	50	65
不登校生徒	81	95
不登校児童生徒数	131	160
小学校出現率	16.1	21.5
中学校出現率	53.8	65.2

○不登校児童生徒は毎年増加傾向にあり、令和5年度実績で小学校65人、中学校95人、市全体で160人、1000人あたりの出現率は、35.7で国や県をやや下回っている。
○令和5年度の本市の不登校児童生徒数は、小学校1～3年生が1桁で、4～6年生が10人台、中学校1・2年生が20人台、中学校3年生が40人台となっており、中学校3年生が突出している。

文部科学省等の分析によれば、長期化するコロナ禍での生活環境における生活リズムの乱れやすい状況が続いたこと、学校生活における様々な制限がある中で交友関係を築くことが難しかったことなど、登校への意欲が湧きにくい状況があったこと等も背景として考えられており、本市も同様の影響があると考えられる。